

発行所

真宗大谷派 光善寺

発行人 太田高顕

茨木市島2丁目3-16

電話 072(632)7107

http://www.eonet.ne.jp/~kouzenzi

# いぶき

2019年1月発行

今月の言葉

おかげさまの

いのち

おかげさまの

新年

## 謹賀新年



元旦に

家族そろって顔を合わせ

おめでとう、と挨拶したら。

そこであなたは

どこからおいでになりましたか、と

尋ねあうのも良いことです。

ほんとうのことはだれも知らない

不思議なえにし

たとえ親と子の間柄でも

いのちの来歴らいれきは語りきれない。

そして取り囲む新年の食卓

これは島

手にした二本の箸はしの幅はばほどに

暮しの道はのびるだろう

きょうから明日へと細く続くだろう。

このちいさな島に鉄道はない  
飛行機も飛ばない

人間が「食べる」という歩調ほちようは  
昔から変わらない。

わずかに平らなテーブルの上に

ことしの花を咲かせるために

喜びよろこの羽音はねこを聞くために

杯さかずきを上げよう。

では向き合って

もう一度おめでとう！

互いの背後はしごには

新しい波がひたひたと寄せて来ている。

石垣りん 「新年の食卓」

## いあひかり

「新年の食卓」の詩は、日頃あわた  
だしく過ぐす我われに、一度立ち止ま  
ってそれぞれのいのちを見直してはど  
うかと勧めているように思える。

ちなみに仏教では、生きとし生きる  
もののいのちの尊さはまったく同じで  
あると説く。さらに、仏教は、自分の  
目でさまざまのものを正しく見る  
ことは大変むずかしい（難中の難）と  
も教えている。

どなたにも、親が自分の希望を聞き  
入れてくれないことに腹を立てたこと  
を覚えておられるのではないだろうか。

鏡に向かつて、より若く見せようと  
髪をセットするのは誰もがもっている  
感情だと思われる。

凡夫といわれるわれわれは、例外な  
く、名聞（人によく見られたい）・利  
養（損はしたくない）・勝他（人より  
も優れていたい）という根性（煩惱）  
をもっている。この煩惱にさまたげら  
れて、ものの事実を正しくとらえきれ  
ないことが多く、他人の気持ち十分  
理解できないことにもなる。

この詩は、一般家庭における新年の  
食卓の大切さを教えているようだ。ま  
ずは一番身近な人々である家族のこと  
ばに、耳を傾けあうことがよびかけら  
れているのである。そこでは、共にた  
まわったいのちの不思議さを語り、お  
互いが結ばれている深い縁を確かめあ  
うのである。そういう積み重ねが、世  
代や立場の違いを超えて、出会いなお  
すことにつながるのではないだろうか。  
まずは、私が今ここに生かされてい  
ることに驚きたいと思う。そのうえで、  
あらためて共に生きるすべての人々と  
向き合っていきたいと願うことです。  
新年おめでとうございます。

本年の行事予定

門徒総報恩講

2月 2日（土）

蓮師会・永代経

3月17日（日）